

とくに考えよう

三郷学のすすめ

今年度から三郷市では市民のみなさんとともに、三郷の資源(人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など)を再認識し、社会環境の変化を見据え、三郷の歩むべき方向性を探り、実際に行動する「三郷学」に取り組みます。



次代を担う子どもたちは未来へのかけ橋

これまでの取り組み

「三郷学」は、木津市長が自らの市政への思いとして提唱したもので、今年度からスタートした第4次三郷市総合計画の中において、先導的に特に力を入れて取り組む「リーディングプロジェクト」の一つと位置づけられています。また、今年2月にはフォーラムを開催し、各種の市民活動についての発表や講演を行い、三郷について学んできました。

三郷の資源とは

人 乳幼児から高齢者までのすべての住民と三郷にゆかりのある人々
自然 三方を水辺に囲まれた水と緑の郷
地勢 起伏がなく平坦なこと

から、バリアフリーな土地

産業 熟練の技術等を持った企業や事業所・職人、小松菜栽培をはじめとする農業

交通 常磐道や首都高速外環道が交わる三郷インターチェンジ、都心へ直結する2本の鉄道

歴史 古くから早稲米の産地として万葉集にも詠まれ、江戸時代には天領として二郷半領と呼ばれていた

教育 「読書のまち三郷」や「親の学習」の推進など
文化 市民による各種の文化活動のほか、地域に伝わる伝統の祭り

その他の要素 コミュニティ、人口の増減、核家族化の進行

今後の取り組み

市では、市の様々な要素をまちづくりの資源としてとらえ、将来の三郷市を考え、行動していきます。今年度も、6回にわたる三郷学ワークショップを開催するなど三郷学の取り組みを進めます。

三郷学で構想するまちづくりワークショップ開催中

7月2日(金)から全6回にわたる市民参加のワークショップが開かれています。主な内容は三郷学の推進にあたり、講座のカリキュラムづくりや政策形成の方法などについて検討するものです。第1回目のワークショップに先だって行われた講演会では、龍谷大学准教授の土山希美枝さんから「ひとつつながる、力をひきだす」のテーマでお話があり、集まった90人のみなさんは、興味深く耳を傾けていました。



1都2県を結ぶ市民の足



江戸川サイクリングロードで水と親しむ



小松菜は県内有数の生産量



交通、流通のかなめ。三郷IC



中川フラワーロードには花が咲く



都心へ軽快アクセス



緑あふれるみさと公園



伝統技術を受け継ぐ